

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190502062		
法人名	株式会社 グリーンプラザ		
事業所名	グループホーム サンダイス 菊水元町		
所在地	札幌市白石区菊水元町8条1丁目14-8		
自己評価作成日	平成30年8月24日	評価結果市町村受理日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/2017/022/kani=true&JigyosyoCd=0190502062-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	平成30年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年10月に社会福祉法人 寛聖会よりグループホーム事業を当法人が譲り受ける。入居者は一部引継ぎ、職員はほぼ入れ替えとなった。運営推進会議やホーム前での行事の開催により、少しずつ地域での認知度は増えて来たかもしれないが、引き続き地域に根差したグループホームを目指していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームサンダイス菊水元町」は、当該の外部評価を受審するに当たり、自己評価で真摯に実践状況を振り返っており、良質なサービスの水準の確保に向けて更なる向上を目指す姿勢が感じられる事業所です。まもなく開設1年を迎えますが、管理者による職員アンケートの実施やユニットリーダー会議を開催し、ケアに対する気づきを促したり、チームケアの大切さを考える機会を確保しています。適切な医療を受けられる支援では、種別ごとの往診体制が充実しています。運営推進会議では町内会や地域包括支援センターよりアドバイスや申し出、応援メッセージが寄せられ、事業所内の多目的ホールを有効活用した取り組みや地域との交流促進により、利用者の生活の幅の拡充が期待されています。利用者が微笑みながら食事介助を受けている姿から穏やかに暮らす様子が見られます。野の花一輪、利用者の心に届ける優しい眼差しを今後も期待します。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員のカウンターに掲示し、毎日目につくようにしている	運営理念は2項目から成り、1つには「自分らしく生きていくために」の内容を掲げています。現在、もう1項目の内容、文言を見直す予定です。	地域密着型サービスの意義や役割を分かりやすく理念に盛り込み、サービスの原点に戻り実践する考えを示しています。新たな理念の共有と実践が事業所全体のものとなるよう期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流を持つまでは至っていないが、入居者との散歩の時など、挨拶など行い交流を持つ取り組みは行っている。	事業所夏祭りに町内会からテント貸し出しを得たり、踊りボランティアの訪問、小学校のリサイクル活動に参加しています。今後は多目的ホールを活用し、地域との交流を深めていく考えを示しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行えていない。入居相談に来た方に、入居に至らない場合でも、認知症の介護についてのアドバイスを行ったことはある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当該機関のユニットごとの活動・事故報告を行い、それに関しての評価をいただいている。	事業所全体及びユニットごとに報告を行っています。身体拘束等適正化委員会の設置による定期開催を実施し、取り組み状況について適宜、報告し評価を得ています。多目的ホール活用や報告のあり方などについて意見が出されるなど、参加者に積極的に関わってもらえる会議運営を目指しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者との連絡は定期的に行っている	法人運営者が市担当者との連絡を担い、区の担当者とは管理者が主となり、手続きに係る事項等について相談し合えるよう協力関係を築いています。地域包括支援センター担当者とは運営推進会議内で連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。夜間帯のみ1階玄関を防犯・人員の関係で施錠している。	「身体拘束適正化に関する指針」を定め、運営推進会議内で適正化について報告し意見を得ています。職員にグレーゾーンに関するアンケートを実施し支援と結びつける機会を設けたり、今年中に、これらに関する内部研修を予定しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員については日常生活自立支援事業・成年後見の研修は行っており、管理者が一括して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一括して行い、理解・納得してから署名・捺印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に意見・要望・苦情の受付窓口・対応について説明している。	家族からはサービスについて率直な意見等が出され、検討し運営に反映するなど、質の向上に取り組んでいます。利用者からも外出や買い物に関する意見等があり、サービスの課題として法人と連携を図りつつ、検討する案件となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットリーダーを通ず事が多いが、意見を聞いている。	職員全員にアンケートを実施中であり、それを元に個人面談を行う予定です。各ユニット会議や管理者とユニットリーダー会議を開催し、職員の意見や情報を共有し、職員とともにより良い運営体制を築く努力を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットリーダーの作成した勤務表を確認している。残業は基本的にさせないよう、業務の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の紹介をしているが、積極的に行く職員はいない。法人内の研修も現時点では実績はない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	現時点で行えていない。同じ系列のグループホームと交流を作る試みを開始する。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族と面談し、信頼関係を構築する事を試みている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成の際に家族の要望を可能な限り反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント行い、適切なサービス提供をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴など考慮し、手伝いなど行ってもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の情報など尋ね、サービスに反映している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人・知人との面会も、特別な事情がない限り、制限していない。	利用者の昔からの友人が訪ねてきたり、月命日に僧侶が来訪する利用者もいます。馴染みの人や場所、個々の習慣や大切な事柄など、できるだけ支援して行きたい考えを示しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者とのコミュニケーションが取りにくい方には、職員が間に入り関係を持てる支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族から相談などあった際には対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望を反映した介護計画を作成している。困難な場合は家族と相談し作成している。	利用者主体の生活の実現のために、利用者の言葉にできない思いの把握や何が本人の希望であるかを家族とも話し合いながら、更に思いや意向の把握に努める考えを示しています。	介護のためのアセスメントのみならず、生活を支えるためのアセスメントを充実していきたいことですので、本人の視点に立った検討がされることに期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム入居後も可能な限りこれまでの生活を継続できる支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント行い、環境の変化も考慮し情報を共有し、サービス計画を修正している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスにて検討し、必要ならば期間内でもサービス計画を変更している。	毎月、各ユニットで利用者全員のカンファレンスを行い、状態像や見直しについて話し合っています。本人の思いや意向などの情報の蓄積とその人らしく暮らせる内容を更に盛り込んだ介護計画作成に向け、記録等を含め検討を行っています。	本人の意向や家族の意見を更に盛り込んだ介護計画の作成に向け検討していますので、より良い計画となるようその取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入とともに、小さな気づきに関しては連絡ノートを用い、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域資源の活用はあまり行えていない。福祉会館の行事の参加など検討中。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院以外の受診は特に制限していない。	契約時に家族等と利用者のかかりつけ医に関する相談を行い、取り決めていきます。2週に1度の内科、月に2度の皮膚科、月に1度以上の歯科の往診と週に1度の訪問看護の体制を整えています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時以外は週に1回の訪問看護時に情報提供を行い、それに対する指示を職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院の担当者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の署名をいただくが、実際に主治医がターミナル期と判断した際は、改めてご家族の意向を確認している。	「重度化した場合における対応の指針」「救命救急措置・延命措置についての意思確認書」について同意書を得ています。医師の判断によりインフォームドコンセントを持ち、重度化、ターミナルへの対応に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを各フロアに準備している。救命講習を受けた事のない職員は、順次講習できるように対応していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。地域との連携は行っていない。	5月に火災・夜間を想定し、消防署の協力を得た避難訓練を実施しています。多目的ホールに災害備蓄品を確保し、停電時に使用可能なキッチンがあります。運営推進会議で防災対策について協議を進める予定です。	10月以降に昼間・地震、火災想定避難訓練を地域住民の協力を得ながら実施する予定ですので、その取り組みに期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は尊重はしているかもしれないが、他者から見ると言葉遣いや態度がそうは見えない事がある。	「認知症の基本理解と事例を通じて考える認知症ケア」について講師を招き内部研修を行っています。職員は利用者の環境の一部である事も踏まえ、職員の意識等についてアンケートを実施するなど、職員が個々に考え振り返る機会を作っています。	管理者は当項目について、再確認していきたい事項であると考えています。、尊厳と権利、言葉の内容や語調など、具体的に確認し合い、事業所全体での質の向上に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の意思を表現してもらえるよう、普段から意識して接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	現状は職員の都合を優先し、業務を行っている事が度々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から清潔感のある身だしなみを意識し、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせた食事形態で提供している。準備や片付けもできる方には一緒に行っている。	献立は外注で食材が届き、食事一連の作業に利用者が参加できるようにしています。芋団子、桜餅などのおやつ作りをすることがあります。誕生日は本人の好きなものが食卓に上り、宅配の寿司、流しそうめんなども提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病により食事制限がある方には、医療機関と相談し提供している。食事・水分量は毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否のある方には時間をおいたり、職員を変えて声掛けし、口腔の清潔保持を行っている。また、歯科往診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿間隔を見ながらトイレの声掛けをし、排せつの失敗を減らすよう行っている。	利用者全員の排泄状況を記録しています。失禁が多くなる場合は、排泄パターンの状況や経過を見て、誘導の変更を行っています。失敗してしまった場合でも本人の自尊心を傷つけない対応となるよう、介護計画に載せているケースがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動の少ない方には、声掛けし活動量の増加を目指し、排便が滞っている方には腹部マッサージをしたり訪看にて腸の音を聞いてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的に1週間に2回入浴してもらっている。拒否のある時は日にちをずらす等対応している。	入浴が可能な時間帯は10時～17時までの間です。職員は希望や要望を把握できるだけ利用者の望むタイミングで支援しています。湯道具は好みの物を使えるようにしています。洗髪で顔が濡れるのが不安な利用者へは、タオルを当てて対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠気強くフロアで傾眠されている方には、声掛けし臥床してもらっている。夜間なかなか寝付けない・トイレ頻回な方は医療機関に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診にて、薬の変更が度々あり、日ごろ薬情報をチェックしていても、なかなか口頭で言えないのが現状。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや10時の体操、午後のレクを行っ		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体行事での地域とのふれあい多少あるが、2階フロアとしての外への散歩はたまにしか行えていない。	外出についてはユニットごとに企画するなど、取り組み状況が異なります。散歩は豊平川の土手や公園などをコースにしています。車両の関係で外出行事が難しい状況ですが、今後、法人の協力を得て実施していく意向です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様了解のもとで、入居者様の中にはご本人が少額のお金を管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話をかける要請ある時は対応している。手紙を出したいという方は今の所いない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの温度や入居者にエアコンの風が当たらないか注意している。生活臭以外の臭いには注意している。フロア内の季節を感じる装飾はあまりできていない。	ダイニングとリビングコーナー、和の小上がりがある広く明るい共用空間で、洗濯物を干すことのできるバルコニーが設置されています。浴室と繋がる脱衣室にはトイレを設置しています。1階の多目的ホールには歩行用のリハビリ器具があるなど、有効活用ができる環境です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくりと過ごされたい方や他者と交流を持って過ごされたい方もいるので、居場所作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、居室内にご自宅の物を持ってきていただく事で、混乱や帰宅願望が出ないようにしている。	居室入り口には自室と分かる飾りがあり、室内にはベッドと吊り棚が備え付けられています。馴染みの家具や調度品が置かれ、家族の写真立てや好みのものが飾り付けがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう物の配置には配慮してい		